

言語活動の充実を図る武道（剣道）の指導方法の在り方

学校名 武雄市立武雄北中学校（佐賀県）第1学年

全校生徒数 122名（男子65名 女子57名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0954（27）2004

学校メールアドレス takeokita-j@mail.saga-ed.jp

1 研究のねらい

- （1）地域の指導者と連携して、初めて剣道を経験する生徒が、安全でかつ意欲的に、特性を理解しながら学習に取り組むことができる指導の在り方を探る。
- （2）地域の指導者の専門性を生かし、学習教材・学習形態を工夫して、言語活動の充実を図る剣道の指導方法の在り方を探る。

2 研究の取組体制

- （1）佐賀県武道等指導推進協議会における協議と取組

- ① 構成メンバーは、大学教授、佐賀県教育委員会関係者、関係団体、地域の指導者、研究実践校代表者とした。
- ② 連絡協議会2回（9/30、2/4）において、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導内容の在り方及び地域の指導者との連携の在り方について研究協議の実施。

- （2）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置

- ① 単元が始まる前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を2回実施。
- ② 次週の指導計画の確認、授業後の評価と次時の指導内容等の確認を毎時間後に実施。
- ③ 単元のまとめと次年度に向けての指導計画等の検討を実施。（12/3）

3 研究の概要

- （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 校区内に二つの町の剣道連盟があり、両連盟会長に趣旨等の説明をし、人選の依頼を行った。
- ② 長年にわたって少年剣道の指導にあたり、実技指導の経験が豊富で、校区内在住ということで両連盟の推薦を受け、指導の依頼を行い招聘した。
- ③ 授業では、授業の流れ、指示、説明等は保健体育科教員が行い、地域の指導者は基本動作や基本となる技の示範と巡回指導を行った。

- （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- ① 地域の指導者と連携し、特に地域の指導者には、技術的な指導の役割を担ってもらい、細かいポイントを丁寧に説明・指導していただいた。
- ② 三人組でのグループ活動を行い、二人が技の練習をしているときは、一人は観察者となり、必ずアドバイスや気付きを他の二人に伝える場面を設定し、言語活動の充実を図った。
- ③ グループ活動の一助として、アドバイスカードを作成した。技術的なポイントを端的に画像付きで示したもので、観察者は手に持って、二人の動きとカードとを照らし合わせながら、アドバイスや教え合いができるように、参考にさせた。
- ④ 約80%の生徒が剣道を見たことがないという実態である。これらの生徒に、剣道のイメージをつかませ、学習を進められるように、導入の段階で剣道のビデオを鑑賞させた。小学生から社会人までの各レベルの試合の映像や、インターネットを活用し、生徒の興味を引くような動画を見せて、学習へのイメージを持たせた。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 生徒用の面にアイガードを装着するとともに、ホワイトボードや学習カードに点検事項等を提示して、生徒による竹刀の点検を活動（使用）前に毎時間行わせた。
- 2 同体格程度の生徒同士になるようなグループ編成をし、竹刀や身体がぶつからないように活動場所や活動方向を明確にした。
- 3 感情的になって打ち合うことのないよう相手を尊重し、礼儀正しく、活動ができるよう指導した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者によるきめ細やかな技術指導や、授業終末での剣道の伝統的な考え方や行動に対する講話を通して、特性に触れながら安全に学習に取り組むことができた。
- 2 技能を習得する段階で、タブレット端末で動画を撮影したり、モデルとなる動きを動画で見たりすることができると、より技能が高まり、言語活動の充実にもつながると考えられる。今後 ICT の効果的な活用について、検討していく必要がある。

○ 研究内容

【地域の指導者の指導風景】

技の示範や巡回指導など、技術面の指導を中心に。



【トリオ学習による言語活動】

観察者は必ず気づきを発言（表現）する。



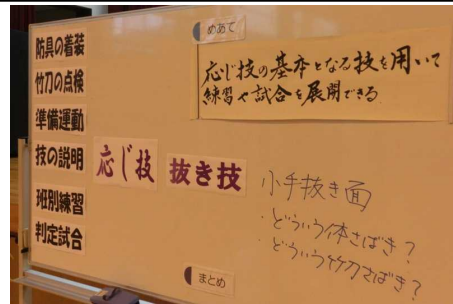
【アドバイスカードの活用】

言語活動の充実を図る手立てとしてカードを活用した。



【指示・説明の明確化】

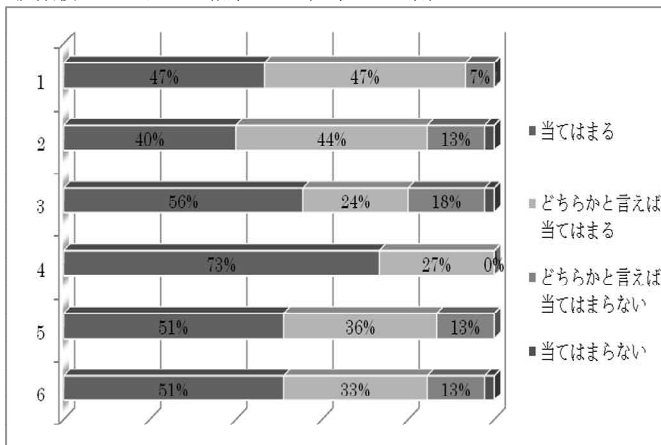
ホワイトボードに授業の流れや、教え合いの視点を示した。



【剣道授業に対する意識・取組に関する調査】

授業後のアンケートより、地域の指導者における指導の有効性がわかる。

授業後のアンケート結果より（1年生 45名）



質問項目（「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と答えた割合）

- 1 剣道の関心意欲が高まりましたか。（94%）
- 2 剣道の技能は高まりましたか。（84%）
- 3 剣道の伝統的な考え方や行動の仕方が身に付きましたか。（80%）
- 4 地域の指導者の指導は参考になりましたか。（100%）
- 5 地域の指導者に来年も指導してほしいですか。（87%）
- 6 剣道の授業は楽しかったですか。（84%）
地域の指導者による指導は、生徒の技能向上にとどまらず、関心・意欲を高めることにも大変有効であった。

【本事業の成果と課題を踏まえて】

保健体育科教員の指導力向上，研鑽・研究の継続

生徒の授業後の感想は、「一本が取れて嬉しかった」、「新しい技に挑戦したい」、「来年も（剣道を）したい」など、肯定的なものがほとんどで、かつ、地域の指導者が「丁寧に教えてくれた」、「おかげで技が磨かれて、試合に勝つことができました」など、本事業の効果を、身をもって感じるものであった。生徒が良い授業と感じる条件に「技や力を伸ばしてくれる授業」がある。今回は、地域の指導者との連携を通して、より専門的な指導ができ、生徒に達成感を味わわせることができた。今後も、ICTの効果的活用や言語活動の充実を図る手立てなど、教科の専門的指導力を高め、生徒の力を伸ばす授業づくりに努めていきたい。

地域の指導者を招聘し、剣道の基本技術の習得と教員の指導力を高めた実践例

学校名 三春町立三春中学校（福島県）第1・2学年

全校生徒数 391名（男子203名 女子188名）

種目等 武道（剣道）

（本事例に係る問合せ先）

電話番号 0247（62）2181

学校メールアドレス school@miharu-j.fks.ed.jp

1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領の改訂に伴い武道が必修となったため、地域の優秀な人材を、武道授業の指導者として招聘することで、生徒に武道の伝統的な行動の仕方や基本動作等を身に付けさせるとともに、技能の向上と安全確保を図る。
- (2) 武道の指導経験が浅い教員が、豊富な指導経験を有する地域の指導者と連携して、授業を進めることで、武道の指導力を高める。

2 研究の取組体制

- (1) 武道等指導推進委員会を設置し、人材リストを作成して必要とする学校に情報提供を行うとともに、指導者の効果的な派遣について、検討及び事業成果の検証等を行う。
 - ①構成メンバーは、福島大学教授、福島県高体連、福島県中体連、(公財)福島県体育協会、福島県企画調整部文化スポーツ局スポーツ課、福島県教育庁健康教育課の各代表とする。
 - ②武道等指導推進委員会3回（6/3, 12/9, 2/24）、福島県教育委員会主催の派遣指導者研修会1回（8月）
- (2) 地域の指導者と保健体育科教員との連絡体制の強化
 - ①地域の指導者二名と保健体育科教員が、剣道指導の計画の段階で話し合いを密にし、発達段階を踏まえた指導分担について協議する。
 - ②地域の指導者の方から保健体育科教員が、剣道の安全面への配慮について十分に指導を受けて授業を進めるように話し合いを持つ。

3 研究の概要

- (1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
地域のスポーツ少年団等の指導者との連携を図り、適任者を選定する。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - ①地域の指導者の助言をもとに作成した単元展開を工夫する。
 - ②地域の指導者の指導等により習得した内容を生かし、教員の指導力の向上を図る。

○児童生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 竹刀の点検を事前に行う等、剣道の特性上、必要な用具の点検をして安全面に配慮した。
- 2 当日は生徒の健康状態の把握に気を配った。また、竹刀で防具以外の部分に打突された場合には、事後の観察を行った。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者からの専門性を生かした指導により、基礎的な技術を身に付けることができた。
- 2 地域の指導者の助言から教員の指導力が向上し、単元後半の指導に生かすことができた。

○ 研究内容

【剣道への心構え・説明】

現物を見せながら丁寧に専門的な指導を加えた。



【道具の取扱い・所作】

道具の取扱いや武道の所作についての様子。



【基本的な技術習得・練習】

地域の指導者の演示による技術指導の様子。



【教員による技術指導】

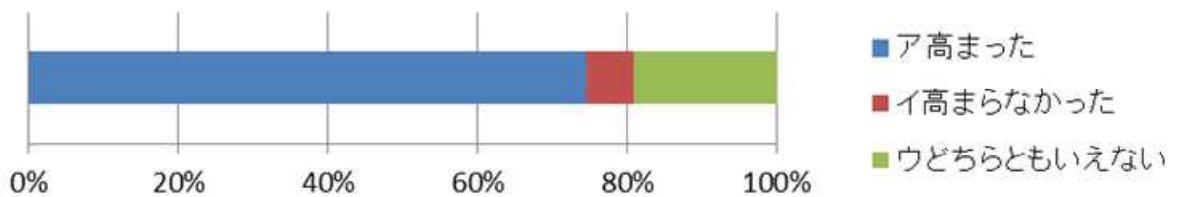
地域の指導者から学び、指導力の向上を図った。



【事後アンケートの結果から】

7割以上の生徒が肯定的な回答をしている。技能だけではなく、関心・意欲の高まりが見られた。

地域の指導者の指導で技能は高まったか



【事業を終えて】

事業を終えてのまとめと今後の取組の方向性

地域の指導者との連携を図り、武道に対する生徒の意識を高めることができた。また、教員の指導力の向上を図ることができたことは大きな成果となった。次年度以降も地域の指導者との連携を密にして、指導経験豊富な地域の指導者の方の力を授業に取り込んでいけるようにしていきたい。

地域の指導者の協力を得て、教員の指導力と生徒の学習意欲を高めた実践例

学 校 名 高梁市立成羽中学校（岡山県）第1・2学年

全校生徒数 111名（男子44名 女子67名）

種 目 等 武道（相撲）

（本事例に係る問合せ先）

電 話 番 号 0866（42）2176

学校メールアドレス nariwachu@sc.city.takahashi.okayama

1 研究のねらい

地域の指導者の技術及び安全における専門的な知識や指導力を活用した授業の在り方を探る。

2 研究の取組体制

（1）武道等指導推進委員会を設置し、外部人材を必要とする学校に情報提供を行うとともに、地域の指導者の効果的な派遣、指導内容等について、検討及び事業成果の検証等を行った。

①構成メンバーは、大学教授、県柔道連盟、県剣道連盟、県相撲連盟、県中体連、各武道種目実施校、保護者の代表とした。

②武道等指導推進委員会2回（8/21、2/29）、安全管理講習会2回（7/30、8/5）、授業視察3回（10/23、11/8、12/6）、派遣指導者事前・事後打合せ会4回（8/7、8/9、3/13、3/14）実施した。

③アンケートにより技能・態度、武道授業の効果、外部指導者像の意識調査を行った。

（2）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会を設置した。

①単元開始前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた検討会を各学校で設けた。

②単元終了後に、地域の指導者から実施上の成果と課題を確認する会を設けた。

3 研究の概要

（1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

武道等指導推進事業の外部指導者派遣事業を活用し、地域の指導者（相撲連盟から推薦を受けた方）を確保した。地域の指導者と事前に打合せを行い、毎時間の流れと内容を確認した。授業主体は保健体育科教員で、技術的補足と安全面の支援を地域の指導者に依頼した。

（2）授業づくりの工夫

①「中学校体育相撲指導の手引き」及び「中学生相撲実技入門」のDVDを視聴することで、知識や基本動作の習得に努めた。

②地域の指導者の助言の基に学習カードを作成し授業を行った。

③地域の指導者の専門指導により、安全面の配慮や各動作の習得、武道（相撲）の礼儀を重んじる心構えの充実を図った。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

1 準備運動、相撲の基本動作の練習、整理運動に十分な時間をかけて行った。

2 土俵の整備と簡易土俵マットを利用して活動した。

3 押しや寄りの方法を細かく指導していただき、けが防止に努めた。

4 禁じ技を知らせ、安全に試合ができるようにした。

○成果の意義と今後の課題

1 相撲の歴史に触れ、武道（相撲）の伝統を知らせることで、礼儀を重んじ、相手を尊重することができるようになった。

2 技の習得について、地域の指導者にアドバイスを頂くことで、一人一人に細かくポイントを押さえた指導、助言が徹底でき、技の習得につながった。

○ 研究内容

【基本動作を身につける】

基本動作の蹲踞の姿勢をとっているところ。



【基本動作・受け身】

投げられたときに安全に受け身がとれるように。



【仕切りから立ち会い】

正規のルールに近い試合。



【学習カード】

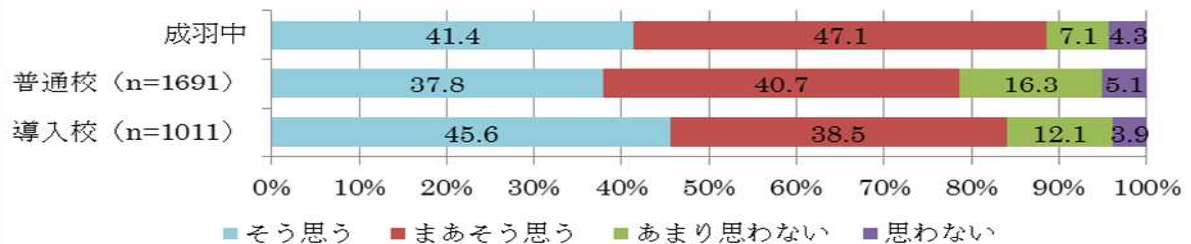
自己の取組を振り返って、次時につなげる。

No.	本時の学習内容とあわせて 学習者の振り返りや振り返りシート で学ぶための課題・目標・結果	相撲 学習カード			
		全体的授業内容に 関する振り返り	めあてに関する 振り返り	実践の中で学んだこと (経験・気づき・学び)	実践に向けての 実践での振り返り
①	○相手の体位を覚えよう。上腕は肩甲骨 の骨で支えられ、肘は肩甲骨の骨で支えられ、腕は肘の骨で支えられ、手は腕の骨で支えられている。 ○基本動作の順番を覚えている。 ：蹲踞、：腰落、：すり足、：受け身				
②	○相手の体位を覚えよう。上腕は肩甲骨の骨で支えられ、肘は肩甲骨の骨で支えられ、腕は肘の骨で支えられ、手は腕の骨で支えられている。 ○基本動作の順番を覚えている。 ：蹲踞、：腰落、：すり足、：受け身				
③	○相手の体位を覚えよう。上腕は肩甲骨の骨で支えられ、肘は肩甲骨の骨で支えられ、腕は肘の骨で支えられ、手は腕の骨で支えられている。 ○基本動作の順番を覚えている。 ：蹲踞、：腰落、：すり足、：受け身				
④	○相手の体位を覚えよう。上腕は肩甲骨の骨で支えられ、肘は肩甲骨の骨で支えられ、腕は肘の骨で支えられ、手は腕の骨で支えられている。 ○基本動作の順番を覚えている。 ：蹲踞、：腰落、：すり足、：受け身				

【武道授業に対するアンケート結果】

地域の指導者を導入していない学校（普通校）・している他校（導入校）・本校の比較（成羽中）

図1-8 この授業で相手を思いやる気持ちを学びましたか



【今後の武道（相撲）授業の取組に向けて】

相撲の伝統を理解し、初めての動作に親しんで活動することができるようになる。

今回は、1、2年生を対象に相撲の単元に取り組んだ。より専門性の高い指導を求め、地域の指導者を希望した。授業の中では、学区内の小学校に土俵があり、実際に土俵を使っでの取組も可能で、生徒の興味・関心も高かった。相撲の基本動作の一つである四股は、柔軟性やバランス感覚、筋力など多くの身体能力が求められる動作であり、個々が自己の体力を知る機会にもつながった。また、アンケート結果にもあるように、「相手を思いやる気持ち」等の育成に有効であった。

地域の指導者による専門的な指導により、生徒の関心と学習意欲を高め、基本技能の習得を図った実践例

学 校 名 南砺市立福野中学校(富山県)第2学年
全校生徒数 357名(男子186名 女子171名)
種 目 等 武道(なぎなた)
(本事例に係る問合せ先)
電 話 番 号 0763(22)2222
学校メールアドレス fukuno-jhs@tym.ed.jp

1 研究のねらい

- (1) 学習指導要領改訂に伴い武道が必修となったことを機に、福野地域で盛んなスポーツであるなぎなたの地域の指導者を保健体育科の授業に招聘し、生徒が武道の伝統的な考え方を理解するとともに基本動作と基本となる技を身に付けることができるようにする。
- (2) 保健体育科教員と指導経験豊富な地域の指導者が連携して授業を進めることで、なぎなたの技能や指導法を学ぶ。

2 研究の取組体制

(1) 地域の指導者の派遣

学校が依頼し、市なぎなた協会の推薦により地域の指導者を派遣してもらう。地域の指導者は、長年、スポーツ少年団の指導に携わるとともに、県内唯一の本校なぎなた部のスポーツエキスパートも務めている。

(2) 地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置

- ① 単元が始まる前に、地域の指導者と指導計画や指導内容を検討する。
- ② 授業実施後の反省と次時の確認を行う。

3 研究の概要

(1) 地域の指導者の協力を得た学習指導の推進

- ① 市なぎなた協会の推薦により、富山県なぎなた連盟の理事、国体監督を長年務める等、指導力に優れた地域の指導者を招聘することができた。
- ② 地域の指導者は主に技能指導を担当し、保健体育科教員は授業全体を把握し進めるとともに学習内容や指導内容を十分理解していない生徒への個別支援や指導、なぎなたの扱い方、安全への配慮を行った。

(2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等

- ① 昨年実施した授業の反省点を踏まえ、生徒が理解しやすいように指導計画を見直した。
- ② 地域の指導者の助言のもとに学習カードを作成した。

○生徒の安全を確保するため配慮(工夫)したこと

- 1 保健体育科教員は、主として授業を進める。地域の指導者は、技術指導を行うなど明確な役割分担をすることによって技能の安全な習得に配慮した。
- 2 なぎなたの特性から十分な広さを確保するために、体育館で1クラス(39名)ずつ学習した。また、用具の名称や扱い方について十分に時間をかけて指導し安全に学習できるよう配慮した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 礼法について具体的に指導を受け、その所作を興味深く、意欲的に学ぶことができた。
- 2 地域の指導者の指導により、男子生徒もなぎなたの特性に触れ、秩序と規律を守りながら積極的に活動した。
- 3 なぎなたの演技の基本技能を、身に付けることができた。
- 4 なぎなた部員や経験者が他の生徒に助言することにより、技能の習得に効果があった。
- 5 1クラス4時間の授業では、基本技能の一部しか学習することができなかった。指導時間を増やせるよう検討し、より多くの技能の習得と定着を図りたい。

○ 研究内容

【地域の指導者による礼法の指導】

「礼に始まり礼に終わる」武道の基本を学ぶ。



【地域の指導者となぎなた部員との模範演技】

模範演技を見て、技が理解しやすくなった。



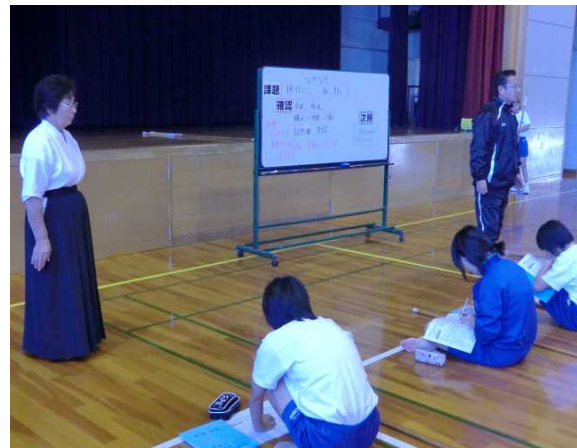
【基本的な技の練習】

発声とともに上段の構えから面打ちをする。



【保健体育科教員による確認】

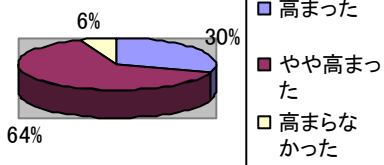
学習カードで、名称や技の確認をし、次時の課題を提示する。



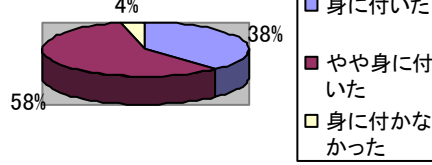
【単元終了後の生徒のアンケート調査結果】

なぎなたへの興味・関心、技能についての意識調査より

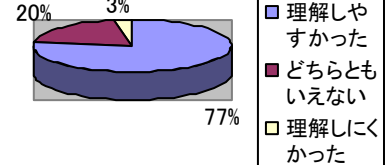
質問① なぎなたに対する関心・学習意欲は高まりましたか



質問② なぎなたの技能は身に付きましたか。



質問③ 地域の指導者の指導は理解しやすかったですか



【なぎなたの授業の継続】

地域の指導者による指導を継続し、なぎなたに関心をもつ生徒を増やしていく。

本校では、来年度以降も地域の指導者を招聘してなぎなたの授業を続けていきたいと考えている。地域の指導者は大変熱心で、なぎなたの授業の継続に強く賛同しており、今後も効果的な指導が期待できる。なぎなたに触れ、なぎなたに関心をもつ生徒を増やすためにも、有意義な授業を展開していきたいと考えている。



地域の指導者の協力を得ながら実施する授業における武道（空手道）の指導

学 校 名 仙台市立愛宕中学校（宮城県）
全校生徒数 148名（男子81名 女子67名）
種 目 等 武道（空手道）
（本事例に係る問合せ先）
電 話 番 号 022（225）7458
学 校 メール ア ド レ ス atagojhs@sendai-c.ed.jp

- 1 研究のねらい
 - （1）地域の指導者を活用しながら、安全に配慮した武道授業の在り方を探る。
 - （2）地域の指導者と教員の連携により、授業内容の充実を図るとともに、教員の指導力向上を目指す。
- 2 研究の取組体制
 - （1）校内において、地域の指導者に関する活用の仕方や指導についての情報交換の場を設けた。
 - （2）安全指導の在り方について、授業を担当する教員と共通理解を図りながら実施した。
- 3 研究の概要
 - （1）地域の指導者を活用した武道指導の推進
本校では、平成25年度からこれまで実施してきた相撲の授業に加え、新たに空手道の授業実践に取り組んだ。地域の指導者は、地域で道場を開いている空手道歴37年の元世界チャンピオンであり、指導歴20年、宮城県の強化コーチを務めるなど指導経験も豊富な方であった。また、本校親師会（父母教師会）の会長でもあり、地域の子供たちの健全育成に尽力するなど、学校教育活動に大変協力的な方であった。
授業においては、武道特有の礼儀や作法に重点を置き、技術指導では対人的な身体接触を伴わない「形」の指導のみを行った。単元の前半では、地域の指導者が基本的な動きや形の流れについての技術指導を中心に行い、教員は巡回指導での個別指導を中心に行った。後半は、グループごとの演武（発表会）に向けて、生徒主体のグループ練習を中心に行った。
発表会では、礼法を重んじ、大きな声を出して演技する生徒の姿が見られ、武道の指導目標である「武道に自主的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。」を達成することができたのではないかと思われる。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

指導内容を、形の指導や礼儀作法に特化することにより、身体接触を伴わない活動であったので、けがの心配がなく思い切った活動ができた。安全及び練習場の確保としては、体育館での実施が可能であり、武道館での狭いスペースよりも活動場所が十分にとれ、安全を確保しやすい活動であった。また、授業者と地域の指導者の協力により、生徒の技能レベルに応じた段階的な指導が可能であった。

○成果と意義と今後の課題

【成果】

- 1 生徒個々の心の伸長や技能面での向上が、活動を通じて感じられた。また、学校教育活動における武道指導の在り方について、指導者が十分理解し、活動を支援して頂けた。
- 2 地域の指導者のサポートにより、技術的な指導の確かさや安全面などにおける安心感があり、授業の充実が図れた。また、地域の指導者が中学生と関わって頂くことで、地域に開かれた学校という点においても有意義な活動であった。
- 3 形の指導であれば、道着を着用しなくても実施可能であり、保護者の経済的な負担を軽減することが可能であった。

【課題】

- 1 授業を担当する教員が、その種目の指導経験がない場合は、役割分担を明確にしないと地域の指導者に任せっきりの授業にもなりかねない。事前に打合せを十分に行い、共通理解を図りながら授業を行うことが大切である。
- 2 現在の学習指導要領における空手道の取扱いは、基本となる3種目（柔道、剣道、相撲）を実施した上で、空手道などその他の武道を「加えて実施」することとなっている。そのため、指導時数に制約が出てしまうので、充実した内容にするためには授業時数の確保が課題である。

○ 研究内容

【授業での指導の様子1】

地域の指導者による技術指導では、教員が巡回して個別指導を行うなど、連携しながら授業を実施した。



【授業での指導の様子2】

グループ学習により、生徒主体の学習場面が充実した。



【グループによる形の発表会】

張り詰めた雰囲気の中で、形の発表を行った。



【本校における空手道実施内容】

空手道の他に、相撲の授業（8時間）も実施している。

【空手道指導計画】

1・2学年→7時間、3学年→5時間

指導内容

- 1 礼法，基本動作
- 2 基本動作，形（撃砕1）
- 3 基本動作，形（撃砕1）
- 4 基本動作，形（撃砕1）
- 5 移動基本動作形，グループ練習1
- 6 移動基本動作形，グループ練習2
- 7 移動基本動作形，撃砕1発表

【地域の指導者の感想から】

地域の指導者が実際に体育の授業で指導して感じたこと（一部抜粋）

- ・空手道は、基本動作→形→組手の一連の流れで指導を行う。中学校の授業においては、基本動作から形までを取り扱った。
- ・反復練習することで、技能だけではなく武道特有の「心」が養われる。そのことは、人間としての活性につながっていると思う。
- ・中学校で指導する前は、思春期の難しい年代なので授業がうまくいか不安だったが、実際には生徒たちは非常に素直で、意欲的に授業に臨んだのでやりやすかった。
- ・空手道の授業は、道着や道具がなくても実施可能であるので、授業では取扱いやすいと思う。また、授業におけるけがが1件も発生しなかったことは、安全面でも非常に良いと思う。
- ・形の発表会を行うことで、仲間同士の交流も深まり、望ましい人間関係の構築にもつながる。
- ・今後は、指導者研修会の充実などで、授業で空手道を指導できる教員を養成していきたい。

地域の指導者と連携して授業を行う
ことで、生徒の興味・関心を高め、踊
る楽しさを味わわせた実践例

学 校 名 鹿児島市立西陵中学校（鹿児島県）第2学年
全校生徒数 396名（男子206名 女子190名）
種 目 等 ダンス（創作ダンス）
（本事例に係る問合せ先）
電 話 番 号 099（281）3122
学校メールアドレス c15-seiryu@keinet.com

- 1 研究のねらい
 - （1）地域の指導者（ダンス指導の専門家）を活用した効果的なダンス指導の在り方を探る。
 - （2）地域の指導者と連携することにより、教員の指導力向上及び授業内容の充実を図る。
- 2 研究の取組体制
 - （1）武道等指導推進協議会の設置
 - ①構成メンバーは、鹿児島県教育委員会、鹿児島市教育委員会、競技団体代表、西陵中学校長、教頭、地域の指導者、保健体育科教員とした。
 - ②学習指導要領の趣旨を踏まえた指導内容の在り方及び地域の指導者との連携の在り方について研究協議を行った。
 - （2）地域の指導者と保健体育科教員との連絡協議会の設置
 - ①単元が始まる前に、地域の指導者とともに指導計画立案に向けた事前の検討会を実施した。
 - ②毎回、授業の前後に指導内容等について検討会を行った。
 - ③地域連携実践校として、研究授業及び授業研究を行った。
- 3 研究の概要
 - （1）地域の指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ①鹿児島市教育委員会の紹介により、地域の指導者を確保した。小学校の教員としての勤務実績があり、自らも舞踊グループに所属し、作品発表を行うなど意欲的に活動している。
 - ②ダンス指導の内容や授業計画については、教員が地域の指導者の助言を受けながら協同で考案し、計画した。
 - ③出席確認、健康観察、授業の見通しや学習内容の説明など全体的な指導は教員が行った。
 - ④具体的なダンス指導については、地域の指導者が中心となっていり、教員は模範を示したり、生徒の支援や個別指導、評価などを行ったりした。
 - （2）具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - ①ブレインストーミングの手法を用いて興味・関心や創造性を高め、「ひと流れの動き」や「対極の動き」など、「動き」をイメージしやすいように工夫した。
 - ②生徒の発想に地域の指導者が専門的な助言を与え、具体的な作品づくりを進めた。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 授業の始まりと終わりに健康状態の把握を十分に行うとともに、ストレッチを中心とした準備運動を入念に行った。
- 2 危険な動きや無理な動きの防止をはじめ、接触による事故防止についての事前指導を徹底した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者と連携した指導体制をとったことにより、生徒たちの興味・関心が高まり、さらにきめ細かな専門的な指導・助言を与えることにより、喜びや達成感を味わわせることができた。
- 2 専門的な指導を間近で見ることにより教員の指導力向上が図れた。今後は連携のタイミングや場面の工夫など、より効果的な連携の在り方を考え、授業改善を図っていくことが必要である。

○ 研究内容

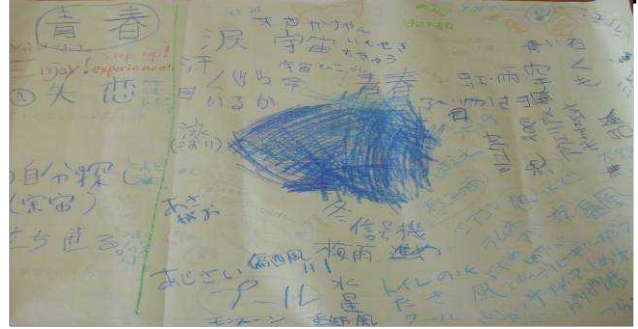
【準備運動(ウォーミングアップ)】

仲間づくりや雰囲気づくりを大切にする。



【ブレインストーミングの活用】

色を基に演技内容や動きを発想していく。



【イメージしやすい動きづくり】

「ひと流れの動き」や「対極の動き」を捉えさせる。



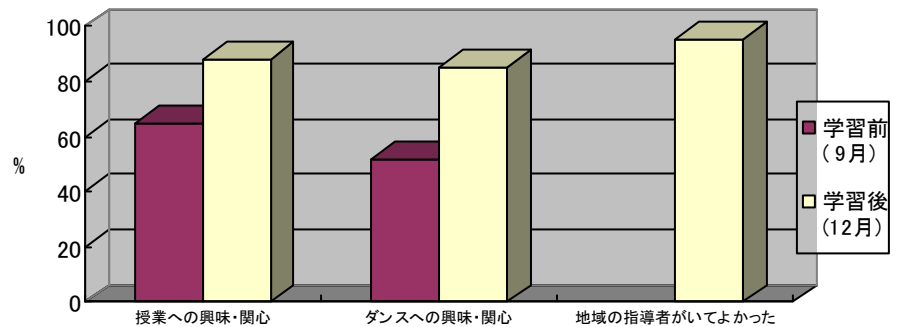
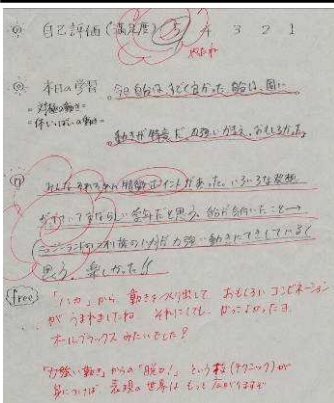
【地域の指導者からのアドバイス】

助言を与え、具体的な動きへと導いていく。



【学習カード及び授業アンケートの結果】

ダンスへの興味・関心が高まり、踊ることの楽しさや喜びを味わうことができた生徒が8割以上となった。



【研究のまとめ】

本事業を終えての反省と今後の方向性について

本事業により、ダンスに対する生徒たちの興味・関心や技能、更には教員の指導力向上に大きな成果をあげることができた。今後も生徒たちが生き生きと輝く授業の創造に向けて、授業の充実や教員の指導力向上への積極的な手立てを講じていきたい。

単元計画

第2学年 創作ダンス

学習の段階	「ひと流れの動き」「対極の動き」「空間」について学習する			
時数	1	2	3	4
小テーマ	オリエンテーション	どうなった？	反応の動き	空間について
活動内容	1 出欠確認・健康観察	1 出欠確認・健康観察 2 ウォーミングアップ ランニング（前向き・後ろ向き・サイドステップ） 3 本時の学習の確認		
	2 去年の学習の想起	○歩く・走る・止まる ・人のいない所を歩いたり走ったりする。 ・動きの途中で止まる。人と違う止まり方を工夫する。	○対極の動きを工夫する。 ・速い⇔遅い ・高い⇔低い ・強い⇔弱い ・つるつる⇔ざらざら ベトベト ・走る⇔止まる ・ゆっくり⇔素早く	○一人が支配する空間を理解する。 ・「プラス 15cmの球体」を意識しながら動く。 離れる 接する 重なる
	3 ダンスの特性	・動きの途中で止まる。人と違う止まり方を工夫する。	○二人組で対極の動きを考える。	○群が表す空間について実際に動きながら考える。
	4 学習の進め方（見通し）	・二人組になってタッチしたら脱力		
	5 ウォーミングアップの仕方	○出会ったら～ ・二人組になって「歩く～出会う～どうなった？」の動きを工夫する。 ・「問い」と「答え」（～したらこうなった。）		
	ペアやグループでの			
評価	関心・意欲・態度 知識・理解	思考・判断	思考・判断 運動の技能	思考・判断 知識・理解
	学習カード			

「動きを工夫して短い作品をつくろう」

「色」から作品のテーマを設定し、簡単な作品をつくる。			
5	6	7	8
テーマの決定とグループ作り	大まかな動きづくり	動きや空間の工夫	仕上げと発表

ストレッチ その他

<p>○クラスごとに赤・青・緑の色からイメージされるものを出し合う。(ブレインストーミング)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きになりそうなものを二つか三つ選ぶ。 ・主題を考える。 ・動いてみたいものを選んでグループに分かれる。 ・実際に動いてみる。 	<p>○テーマに沿って「はじめ」「なか」「おわり」の動きを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動きながら考える。 ・どの位置から始めてどのように動くか。 ・簡単なひとまとまりを考える。 ・いろいろな動きを試してみる。 	<p>○表現の工夫をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとまとまりの動きになるように工夫する。 ・対極の動きを使う。思い切り体を動かす。 ・空間の使い方を工夫する。どこへ、どのように動くか？ 	<p>○作品の仕上げをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい動き方を確認する。 ・表現したいことを確認する。 <p>○グループごとに発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気持ちを込めて表現する。 <p>○感想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工夫が見られたところ。 ・印象に残った動き（表情も含めて）
--	---	---	--

動きの見せ合いをする。

関心・意欲・態度 思考・判断	思考・判断 運動の技能	思考・判断 運動の技能	運動の技能 知識・理解
-------------------	----------------	----------------	----------------

・観察

学校と地域の指導者との連携 による効果的な指導の在り方

学 校 名 四国中央市立川之江北中学校（愛媛県）第3学年

全校生徒数 482名（男子263名 女子219名）

種 目 等 ダンス（現代的なリズムダンス）

（本事例に係る問合せ先）

電 話 番 号 0896（28）6287

学校メールアドレス kaw-n-jad@esnet.ed.jp

1 研究のねらい

- （1）安全で楽しいダンスの授業づくり
- （2）地域の指導者との連携による効果的・効率的な授業実践

2 研究の取組体制

- （1）保健体育部会で単元の指導計画を作成

武道・ダンス指導研修会（県教委主催）で学んだ内容や配布資料（「指導参考資料（県教委）」「ダンスリーフレット（文科省）」）などを基に、学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善ができるよう保健体育部会で協議し、単元の指導計画を作成した。

- （2）地域の指導者との事前打合せ及び授業後の情報交換

事前の打合せで、過去のダンス領域の内容と要望等を説明した後、地域の指導者との連携の在り方を協議した。地域の指導者からの提案を積極的に取り入れるために、授業後に可能な限り情報交換の時間を取り、次時の内容やダンスの楽しさを味わわせる指導について共通理解を図った。

3 研究の概要

- （1）地域の指導者と連携した効果的な学習指導の推進

①授業の導入に、体づくり運動の要素を含んだプログラムを取り入れ、心も身体も温まった状態でダンスを楽しむことができる雰囲気づくりに努める。

②創作の段階では、選択した曲のリズムの特徴をとらえ、身に付けているステップと変化のある動きを組み合わせた段階的な指導を行う。

- （2）生徒の意欲や向上心を育む指導の工夫

①地域の指導者の師範により、目標となる動きを意識して、意欲的に活動に取り組ませる。

②基本となるステップの練習の段階からグループで取り組ませ、仲間と一緒にステップを習得したり、作品を完成させたりする喜びを味わわせる。

○生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

- 1 年間指導計画作成時、他領域との重なりに留意し、体育館全面を使用して授業を行うことができるようにしたことで、活動のスペースを十分に確保し、安全で効率よく実施できた。
- 2 グループで練習する際には、使用するCDデッキの指定や音量、踊る場所の確認を行うなど、機器の点検や安全管理に留意した。

○成果の意義と今後の課題

- 1 地域の指導者の課題に応じた師範により、生徒のダンスに対するイメージがよくなったり、意欲が高まったりした。また、担当教員の今後の指導の参考になった。
- 2 地域の指導者との打合せの時間は、担当教員の時間割や地域の指導者の交通手段の都合上、十分に確保することが難しかった。今後、限られた時間内で効果的な打合せができるよう検討したい。

○研究内容

【オリエンテーション】 フラッシュカードによる説明



【導入】 心も身体も温まるプログラム



【ステップの練習】 基本ステップを班で練習

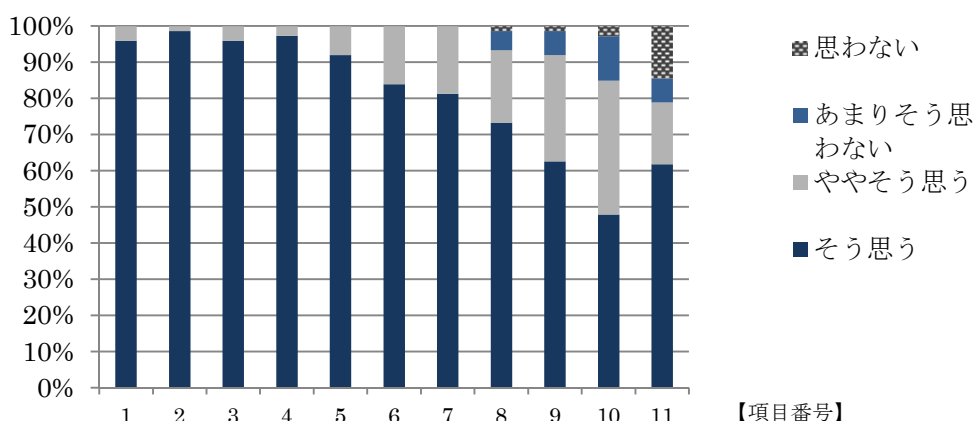


【グループでの活動】 ミニ発表



【ダンスについてのアンケート】(第3学年女子75名対象)

- | | |
|--|-------------------------------|
| 1 ダンスの学習に積極的に取り組もうとしている。 | 7 学習した安全上の留意点を他の場面に当てはめている。 |
| 2 仲間のよさを認め合おうとしている。 | 8 曲のリズムの特徴をとらえて踊ることができる。 |
| 3 分担した役割を果たそうとしたり、仲間の学習を援助しようとしたりしている。 | 9 動きを誇張したり、変化したりする工夫をしている。 |
| 4 健康・安全に留意している。 | 10 ダンスの由来などが分かる。 |
| 5 課題に応じた練習方法を選んでいる。 | 11 表現の仕方、ダンスに関連して高まる体力などが分かる。 |
| 6 見せ合ったり、発表したりする場面で、仲間のよい動きや表現などを指摘している。 | |



客観的な成果・分析、感想など

地域の指導者と連携したことにより、生徒のダンスへのイメージや意欲が大変よくなり、積極的に活動する姿が見られた。導入で心も身体も温まるプログラムを実施したことで、大変よい雰囲気での授業が進んでいった。

学級によって同じ内容を行っても反応が全く異なるので、地域の指導者と担当教員との打合せを密にして指導する必要がある。対象は第3学年の女子生徒のみだったが、時間調整が可能ならば、他の学年の授業も指導していただきたいと感じた。多くの生徒がダンスの楽しさや仲間と関わる楽しさを十分に実感できた。また、教員も専門的なことを学ぶことができ、今後のダンス指導の参考になった。

総合型地域スポーツクラブの指導者との連携により、生徒の興味・関心を高め、踊る楽しさを味わうことができる実践例

学 校 名 飯塚市立幸袋中学校（福岡県）第2学年
全校生徒数 225名（男子117名 女子108名）
種 目 等 ダンス（現代的なリズムのダンス）
（本事例に係る問い合わせ先）
電 話 番 号 0948（22）2924
学校メールアドレス kobukuro.j@city-iizuka.ed.jp

1 研究のねらい

- (1) 総合型地域スポーツクラブとの連携・交流事業の「クラブ指導者の派遣による学校授業・部活動への支援」を活用して、ダンスの指導者を学校の授業に派遣してもらうことで、生徒たちのダンスに対するイメージをアップさせ、興味・関心を高めることができる。
- (2) 教員にとっても、ダンス専門家の指導方法を学ぶ良い機会となり、今後の授業展開や指導方法の改善を図ることができる。

2 研究の取組体制

- (1) 総合型地域スポーツクラブとの連携・交流事業の活用。
- (2) 福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課の事業活用。
- (3) 総合型地域スポーツクラブの指導者（以下、クラブ指導者という）と保健体育科教員との連絡協議会の設置。
 - ①単元が始まる前に、クラブ指導者とともに、指導計画の立案と授業内容についての検討。
 - ②授業前アンケート内容の検討、アンケート結果を受けての生徒の現状分析と指導方法や内容についての検討。

3 研究の概要

- (1) クラブ指導者の協力を得た学習指導の推進
 - ①総合型地域スポーツクラブとの連携・交流事業を活用して、クラブ指導者を学校授業へ派遣してもらえるよう依頼をした。
 - ②福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課の「学校体育における地域人材活用事業」の活用。
- (2) 具体的な取組内容・方法、取組を進める上での工夫点等
 - ①クラブ指導者と連携した授業を展開し、生徒への支援を充実させる体制を整えた。
 - ②教員が実技講習会で習得した内容を生かしながら、ダンスの基本動作を中心とした授業を3時間の計画で展開し、その後の授業へのつながりをもたせた。

○ 生徒の安全を確保するため配慮（工夫）したこと

準備運動の段階からリズムに合わせたストレッチ運動を取り入れ、基本動作を中心としたウォーミングアップを念入りに行うことにより、生徒の安全確保に配慮した。

○ 成果の意義と今後の課題

- 1 総合型地域スポーツクラブからクラブ指導者を派遣してもらうことにより、生徒たちが授業に臨む意欲が高まった。また、ダンスに対するイメージアップを図ることができ、興味・関心を高めることができた。
- 2 教員にとっても、ダンス授業の雰囲気づくりをすることの大切さを学ぶ事ができた。導入段階からの流れを体験でき、今後の授業展開や指導方法の改善を図る良い機会となった。

○ 研究内容

【クラブ指導者との授業①】
基本動作（アイソレーション）



【クラブ指導者との授業②】
基本動作（リズムレッスン）



【グループ練習①】
グループ内での学び合い活動



【グループ練習②】
グループ独自の動きや隊形の工夫



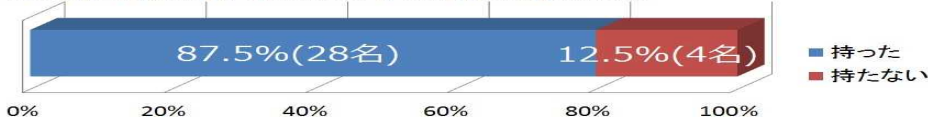
【生徒のダンスに対する興味の変化】

授業前アンケートでは、ダンスに興味をもっている生徒が3名だったが、授業後は28名へと増加した。

「ダンス」に興味がありますか。(ダンス授業前)



「ダンス」に興味を持ちましたか。(外部人材授業後)



グループごとの練習を通して、「ダンス」に興味をもちましたか。(ダンス授業終了後)



【総合型地域スポーツクラブや地域人材の活用による「コミュニティスクール」の創造】

本校は平成28年度に小中一貫教育校（校舎一体型）の開校を控えており、「コミュニティスクールの創造」につながる良い機会となった。学校と保護者や地域の皆さんが共に知恵を出し合い、一緒に協働しながら子供たちの豊かな成長を支えていく「地域と共にある学校づくり」を推進していくためのきっかけとしたい。

